



いのちを守る教育推進プラン
千葉市を日本のシアトルに!

千葉市医師会 中村真人



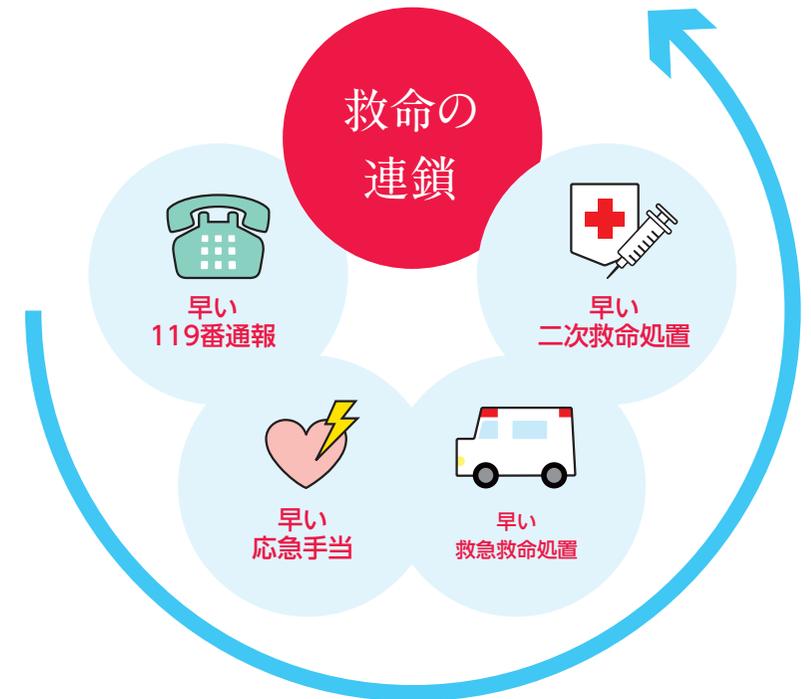
1 背景と目的 千葉市を日本のシアトルに！

アメリカのシアトル市における「救命率(※1)」は年間平均で30%~40%という驚異的な数値を示しており、「世界一の救命都市」といわれている。一方、日本の救命率は、わずか5%未満。

シアトル市での高い救命率を支えているのは、「バイスタンダー(※2) CPR」(その場に居合わせた人の心肺蘇生法の実施率)の高さであり、市民の「救命講習の受講率の高さ」がその背景にある。なんと、シアトル市総人口約60万人の約半数が「救命講習」の受講者であり、二人に一人の市民が応急手当を実施できる「市民の50%が有資格者」である。

シアトル市の救命率が高い一番の要因は、バイスタンダーCPRの高い実施率にあり、それが「救命の連鎖(※3)」を恒常的に機能させ、高い救命率に繋がっている。

現在の日本は、バイスタンダーCPRの実施率は非常に低く、ほとんどの現場では実施されていない。本市の「救命率の向上」を目指すためには、ライフサイクルのより早い段階からのバイスタンダーの養成が不可欠である。シアトル市では1970年代後半から、市内の公立中学校の中学1年生に対しての「救命講習」を学校の授業プログラムの必須科目として実施していった結果が現在のバイスタンダーの普及育成の大きな力となっている。



- ※1 救命率 …………… 心臓疾患が原因で心肺停止となった人を、一般市民が目撃してから1カ月以上、生存した症例の率。
- ※2 バイスタンダー … bystander. 救急現場に居合わせた人。
- ※3 救命の連鎖 …………… 「早い119番通報・早い心肺蘇生・早い除細動・二次救命処置」

2 「いのちを守る教育」事業プラン

「いのちを守る教育」モデル事業の実施(みつわ台中学校区)

平成23年度はモデル地区を指定し、小5・中2・高1を対象として「いのちを守る教育」のモデル事業としてゲストティーチャーを活用した保健指導・保健学習の実施し、その評価を行う。ライフサイクルのより早い段階で3回以上の救命講習を受ける環境を整える。

指導用DVD教材の製作及び指導者の育成

専門医監修のもと指導用DVDを作成し、平成24年度以降、全ての千葉市立学校で指導可能にする。また、研修会・講習会を開催し、指導者の育成も行う。

モデル指定校
みつわ台北小学校・みつわ台南小学校・源小学校・
みつわ台中学校・(若松高校)



※写真はイメージとなります

心停止からの救命率はどこでも同じでしょうか？

- ほとんどの大都市では、5%程度
- ところが、シアトルでは何と45%

千葉市がシアトルになると？

- 市民が暮らしたい町になる。
- 貴重な人的資源の喪失が減少する。
- 千葉市の経済的市場価値が高まる。
- 死を考えることで生が輝く、教育効果。
- 受け身の医療でなく、前向き医療を。

千葉市がシアトルになる為には？

- 市民の最低10%以上が、自信を持って質の高いBLSを出来るようになることが必須。
- 最低10万人以上の方が3回以上BLSを受ける。

市の5月の人口は
963,744人

- 消防局は、年に何と約1万人以上に指導中です。
- しかし10%の方が、3回実習受けるのに約30年かかります。

小中高生徒が
知的好奇心に溢れ、
感受性豊かな時期に
教えるべきである

- 千葉市内の小中高で、年24,000名集団指導できる。合計34,000名。
- 市民の10%達成は10年後になる。
- しかし、マネキンが高い。
→ 千葉市医師会が用意しました。



千葉市と医師会の連携で
千葉市を日本のシアトルに!

- 千葉市救急システムの維持。
- 学校における命を守る教育推進プランの支援活動。
- ICLS研修サイトの設立。
- 救急医研修会の常設。